



重 点	4 月	5 月	6 月	7 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
めあて	徳 あいさつ ルール	体 運動会	知 学習充実 期Ⅰ	徳 生活	徳 あいさつ	知 読書	知 学習充実 期Ⅱ	体 体づくり (運動)	体 体づくり (健康)	知 学習充実 期Ⅲ	徳 感謝
子ども	安定した 学校生活	目標へ向 かう姿	進んで学 習	落ち着いた 生活	さわやか あいさつ	本に親し む	対話によ る学ぶ姿	寒さに負 けない体	寒さに負 けない体	学びを深 める	ありがと う表現
教職員	挨拶推進 学級作り	鍛える	授業改善	学校評価	豊浜から 世界に	啓迪文庫	授業改善	学校評価 体づくり	健康 10 か条	学力保障	振り返り 認める
改善 P	羅針盤	船体	スクルー	羅針盤	船体	スクルー	スクルー	レーダー	羅針盤	新試行	ドック
指標	知：①授業の内容がよく分かる子ども（80%） ②豊浜の地域・歴史・自然に関心を持って豊浜ふるさと学習に取り組む子ども（90%） ③「とよはま言の葉」を意識した生活ができている子ども（80%） ④外国語活動の授業が楽しいと感じる子ども（90%） 徳：①友達のことを考えて行動することができる子ども（85%） ②自分にはよいところがあると思うと考える子ども（80%） ③さわやかあいさつを心掛け、場に応じた言葉の使い分けができる子ども（85%） ④学校をきれいにするために進んで活動している子ども（黙々そうじ・ナイスライタイム）（85%） ⑤感謝の気持ちをもち行動できる子ども（90%） 体：①外で元気に遊ぶ子ども（90%） ②目標をもって行事や大会に最後まで取り組む子ども 90% ③健康 10 か条を意識している子ども（80%）										
学力保障	新学習指導要領への対応 ベーシック授業システムの構築 個別学習システム										

豊浜から未来をひらく
はまぼう学府一貫教育

コミュニティ・スクール&スクール・コミュニティ

平成 31 年度の豊浜小学校の教育

1 究極目標 「豊浜、啓迪！」

願いが込められた旧校名「啓迪」、校章「波」、スクールシンボル「碇」が象徴する、時代の波を生かし、豊浜から未来をひらく人「豊浜、啓迪！」が究極目標である。

2 学校教育目標 「挑戦し、高め合う子」

新学習指導要領が想定した子どもたちが大人になる 2030 年以降の未来予想図（人口動態、AI 等がもたらす予測困難な時代）に対応する資質・能力を育成することが求められる。予測困難な時代でも未来を切り開く「啓迪」に向け、「一歩前へ、ナイストライ、振り返り」を上昇回転エンジンとした「挑戦し、高め合う子」を小学校段階で目指す。

3 重点目標 「学力保障」「豊浜から未来をひらく環境整備」

平成 32 年度に本格実施する新学習指導要領への十分な対応ができるよう、子どもが主体的に見通しをもって授業に参加する「ベーシック授業システム」の確立を目指す。ベーシック授業システムによって学力保障を図り、校内研修はもとより、教育活動全般を、未来を切り開く資質・能力の育成の視点「豊浜から未来をひらく」から捉え直す。

授業づくり：「ベーシック授業システム」の確立

豊浜から未来をひらく環境整備：ふるさと学習室活用、啓迪ロード、道徳地域教材開発
地域と連携した総合的な学習の時間等の実施

「3本の碇」を大切にしたい日常的な活動に取り組む

知の碇：「わかった」「できた」→「本当」を追究する授業

徳の碇：こころを込めた掃除等の活動、否定されない安心感→「本物」を追究する

体の碇：目標に向けた取り組み、健康 10 か条→「本来」の姿を追究する

4 目指す学校像 「子どもの笑顔、成長をとおして幸せになる学校」

子ども：明日も行きたい学校 教職員：ここで働き夢を実現したい学校

保護者・地域住民：学ばせたい学校

5 目指す教師像 「教育的愛情に基づいた絶えざる改善ができる教職員」

6 キーワード

組織改善ポイント<改善P>

羅針盤：現在地の共通理解と方向性の共通意思形成ができたか

船体：職員、保護者、地域との連携体制づくりができたか

スクリュー：エンジンが支障なくフル回転し前進しているか

レーダー：次年度以降に向けた情報収集に不足はないか

新試行：新たな試行を小さく実行し改善点を見つけているか

ドック：新試行を検証・改善し4月に大きく展開できる状態か

コミュニティ・スクール&スクール・コミュニティ

「地域とともにある学校」：地域  学校（双方向）